# 川 口 博 之(助教授)\*)

A-1) 専門領域: 錯体化学

### A-2) 研究課題:

- a) シリルカルコゲノラート錯体を前駆体としたカルコゲニド化合物の合成
- b) 多核金属錯体の合成と反応性に関する研究

#### A-3) 研究活動の概略と主な成果

- a) シリルカルコゲノラート錯体を前駆体としたカルコゲニド化合物の合成:カルコゲニドクラスター化合物の新しい 構築手法として、シリルカルコゲノラート錯体を前駆体した合成法の開発を計画した。ケイ素-カルコゲン結合は温 和な条件で切断することが可能であり、シリルカルコゲノラート錯体はカルコゲニド化合物の合成において有用な 前駆体になると期待できるが、シリルカルコゲノラート錯体の合成例は非常に限られている。シリルカルコゲノラー ト錯体の合成を行い、種々の遷移金属錯体の合成に成功した。
- b) 多核金属錯体の合成と反応性に関する研究:多核金属錯体を構築する新しい配位子としてビス(アミジナート)配位 子を用いて錯体合成を行った。その結果、ビス(アミジナート)配位子は単核および2核錯体を選択的に合成できる興 味深い配位子であることを明らかにした。

### B-1) 学術論文

- Y. ARIKAWA, H. KAWAGUCHI, K. KASHIWABARA and K. TATSUMI, "Synthesis of Bis{(2-dimethylphosphino)ethane-1-thiolato}bis(t-butylthiolato)Molybdenum(IV) and Its Cluster Forming Reactions with FeCl<sub>2</sub> and CuBr," *Inorg. Chem.* 38, 4549 (1999).
- T. NAGASAWA, H. KAWAGUCHI and K. TATSUMI, "Isolation of Pentamethylcyclopentadienyl tris(tert-Butylthiolato) complexes of Tungsten(IV) and Carbon-Sulfur Bond Activation," J. Organomet. Chem. 592, 46 (1999).
- J. LANG, H. KAWAGUCHI and K. TATSUMI, "Synthesis and Structures of a Triply-Fused Incomplete Cluster [{( $\eta^5$ -Commun. 2315 (1999).
- Y. YAMAMOTO, H. KITAHARA, R. OGAWA, H. KAWAGUCHI, K. TATSUMI and K. ITOH, "Ru(II)-Catalyzed Cycloadditions of 1,6-Heptadiynes with Alkenes: New Synthetic Potential of Ruthenacyclopentatrienes as Biscarbenoids in Tandem Cyclopropanation of Bicycloalkenes and Heteroatom-Assisted Cyclocotrimerization of 1,6-Heptadiynes with Heterocyclic Alkenes," J. Am. Chem. Soc. 122, 4310 (2000).
- H. KAWAGUCHI and K. TATSUMI, "Synthesis and Structures of Half-sandwich W(VI) Tri(selenido) and W(II) Selenolato Complexes," Chem. Commun. 1299 (2000).

#### B-4) 招待講演

H. KAWAGUCHI and K. TATSUMI, "Assembly of Mo<sub>2</sub>Fe<sub>2</sub>S<sub>4</sub> Cubane Units," Pacifichem 2000, Honolulu (U. S. A.), December 2000.

### B-6) 学会および社会的活動

学会誌編集委員

「化学と工業」トピックス委員.

## C) 研究活動の課題と展望

我々のグループでは現在、A-2)に挙げた2つの課題を中心に研究を進めている。カルコゲンを配位子とする多核金属錯体は 興味深い物性や反応性を示すため、多くの研究が行われている。しかし、金属カルコゲニドクラスター化合物を設計し、目的 とする化合物を合理的に、効率よく合成する手法は十分に確立しているとは言い難い。課題a)ではシリルカルコゲノラート錯 体を前駆体として用いた、合理的な金属カルコゲニドクラスター化合物の新規合成法の開発を行う。課題b)では多核金属 錯体を合成し、クラスター上での分子変換反応の開拓を行っていきたい。特に、小分子活性化を目指し研究を進める。

\* )2000年5月1日着任